

佐賀大学理工学部と官学連携協定を締結

7/19[Mon]



▲協定を結んだ豊田学部長（右）と横尾市長（左）

国立大学法人佐賀大学理工学部と多久市は、情報サービスで幅広く連携し、新たな価値の創造による地域社会の発展と市民サービスのさらなる向上を図るため、官学連携に関する協定を締結しました。

協定では、情報技術の活用による市民サービスの向上や大学教育・学術研究の推進など5項目を規定。佐賀大学理工学部の豊田一彦学部長は「地域と密接し、要望に合わせたデジタル変化のお手伝いをすることで、相互に発展していきたい」と話されました。

横尾俊彦市長は「これまで蓄積されてきた知の発展の成果を分けていただき、市民のみなさんがより便利にサービスを受けられるよう進化したい」と話しました。

エスディー・ジーズ しほさい (株)南里運送が「さぎんSDGs私募債」で寄付

7/27[Tue]

株式会社南里運送（本社：東多久町）は、佐賀銀行の「さぎんSDGs私募債」を活用し、多久市内の義務教育学校3校へ20万円を寄付しました。この私募債は、SDGsへの取り組みをより普及拡大するもので、条件を満たした優良企業にのみ発行されます。

株式会社南里運送の福島隆宏代表取締役社長は「約70年間事業を続けてこれたのは多久市のみなさんのおかげ。子どもたちを支援できて嬉しい」と話されました。

寄付を受け、横尾俊彦市長は「子どもたちへの支援は欠くことのできない重要なものなので、大変ありがたく思う」と感謝を述べました。

寄付金は、各学校の防犯カメラの設置に活用させていただきます。

※SDGs…持続可能な開発目標。2030年度までの世界共通目標として「質の高い教育をみんなに」など、17項目が設定されている



▲福島代表取締役社長（中央右）から横尾市長（中央左）へ目録が手渡されました

多久山笠の提灯山を展示

8/8 [Sun]~15 [Sun]



▲多くの人が足を止めて提灯山を眺めていました

多久山笠（主催：多久山笠委員会）の巡行が新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年に続き中止となったことを受け、提灯を飾った山笠が多久市まちづくり交流センターあいぱれっと前に展示されました。

例年は山笠を地元の若者が組み立て、子どもたちがお囃子や笛、鉦、太鼓を演奏。こうした伝統を継承し続けていくため、今年は展示のほか、昨年は行えなかった子どもたちのお囃子の練習を再開しました。

多久山笠委員会の井手智章事務局長は「昨年は山笠のない夏となり寂しかったが、今年は有志のみなさんの積極的な活動のおかげで新しい形の多久山笠を楽しめた」と喜びを話されました。

展示最終日には花火も上がり、思い思いの場所で多久の夏を楽しみました。